

報 告

大学部活動内で飼育される犬の体重管理に関する クライアントエデュケーション

Client Education of Dog's Body Weight at the University Club

友野 悠¹⁾・石橋 美花²⁾

TOMONO Haruka ISHIBASHI Mika

要 約

犬の健康維持に体重管理は重要である一方で、日本における飼い主への体重管理支援に関する報告は少ない。

本報告では、大学部活動内の部員同士での情報共有不足による飼育犬の体重過多を防ぐ為に、部員同士の情報共有の支援を行った。

2014年6月～2019年9月に部員の飼育状況に合わせて、異なる給餌方法を指導した。

各期間は、部員が任意の量を給餌（A期）、1回分の食餌量に小分けし、1回1袋を給餌するよう指導（B期）、フード袋に表示された症例の体重に適正な量を給餌するよう指導およびチェックリスト作成（C期）であった。給餌は1日2回とし、4週間に1回来院し体重測定を行った。

各期間の平均体重（最小体重～最大体重）は、A期：30.6kg（28.4kg～33.3kg）、B期：31.6kg（30.1kg～32.2kg）、C期：29.8kg（28.1kg～32.0kg）であった。また、チェックリストの作成により適切な給餌管理が行えた。

給餌量の明確化、チェックリストの作成により適正な体重管理を支援できる事が示唆された。

キーワード：クライアントエデュケーション、体重管理、コミュニケーション

緒 言

人と動物のより良い共生を目指し、飼養管理などの教育支援を中心として飼い主への普及啓発活動をクライアントエデュケーション（飼い主教育）と言う¹⁾。動物病院におけるクライアントエデュケーションは、糖尿病、関節炎、肥満、心臓や腎臓の疾患になる要因を減らす為の栄養管理、感染症を予防する為のワクチン、寄生虫の駆除の指導、しつけやトレーニングなどがある²⁾。

犬の体重管理において、飼育状況を聴取することは正しい管理を継続させる為に重要である³⁾。小動物の肥満は3%の動物の要因と97%飼い主の要因であると言われている³⁾。

犬の要因として、性別、避妊去勢の有無を、飼い主の要因として、フードの種類と与え方、普段の運動量、飼育環境を聴取する必要がある²⁾。Marianaらによると、犬の減量プログラムにおいて、64.4%が満足以減量できず、そのうちの44.7%の飼い主が、獣医師の提示した低カロリーの食餌と運動に従わなかった⁴⁾。この結果より、獣医師と飼い主の良いコミュニケーションは、食餌と運動指導に従わせる為に重要である。また、これらの指導にどのように従うのか理解

1) ヤマザキ動物看護大学

2) 麻布大学附属動物病院

しなかった飼い主が高い割合でいた可能性がある一方で、それに関する研究はまだないと述べた。このことから、肥満の重大さ、明確な指導方法をクライアントエデュケーションにおいて伝える事が重要であると結論づけた⁴⁾。

人医療においてコメディカルは発達しており、看護師、保健師、管理栄養師、薬剤師、理学療法士がコメディカルチームとなり、健康指導を行っている⁵⁾。獣医療ではコメディカルが発達しておらず、動物看護師がこれらの役割を担う必要があると筆者は考える。

本報告は、大学の部活内の部員同士での情報共有を中心として犬の体重管理に関するクライアントエデュケーションを行った一例である。飼育者が多い環境における犬の体重管理について検討した。

症 例

本症例は雑種犬、2006年11月29日生まれ、去勢雄、成犬時の体重約30kgである（以後、ボスと呼ぶ）。ボスは2008年3月から2013年8月まで麻布大学附属動物病院で供血犬として飼育され、2013年8月2日に供血犬を引退し、同大学の部活へ譲渡された。

給餌指導及び体重管理

2013年8月～2015年11月はドライフードを毎月処方しており、その後2015年12月～2019年9月は部員が準備したフードをボスに与えていた。

2013年11月の混合ワクチン接種時の体重は29.7kgでボディコンディションスコア（以下BCS: Body Condition Score）が3/5であった。2015年4月の健康診断時に体重32.0kgでBCSが4/5になっていた。普段の給餌状況を獣医師が聴取すると、処方したフードを決まった容量、回数よりも多く与えている可能性がある事が分かった。

2015年4月より、ボスの健康管理および部員との情報共有を円滑にする為、担当する動物看護師（以下担当看護師）を決定した。

最初に、担当看護師は部員に2013年8月～2015年4月のボスの世話について確認を行った。ボスの世話は朝と夕方の部活動の間に行われていた。食事と散歩は部員20人程度が交代で行っていたが、食事に関して部員同士で共有できていなかった。その為、フードを

与えた部員が空になった食器を片付けた後に、小屋の前を通りかかった他の部員が、尾を振るボスの姿を見てフードを待っているのだと思い再度フードを与えていた。複数の部員がそれを行ったことにより過度に食事を与えていた。また、1回量も明確に決められていなかった。このことから、担当看護師である筆者らは部員の情報共有不足が体重増加の原因であると考えた。

担当看護師は症例の体重、食事を中心とした健康管理を部員に指導する事とした。来院時は担当看護師が対応し、部員から普段のボスの生活状況、大きな変化の有無を聴取、一般身体検査を行い、獣医師に報告をした。

食事の1回量を一定にする為に、異なる工夫をした指導を行った。その結果として、2014年6月～2015年3月、2015年12月～2017年10月は部員が準備したフードを任意の量与えた（この間の体重変化をA期とした）。2015年4月～2015年11月は担当看護師が、ドライフードを1回210g（フード会社の給与表を参照）に小分けをしたものを渡し、1回1袋与えるよう指導した（以下B期）。2017年11月～2019年9月は症例の体重が30kg程度でありBCSが3/5であった。また部員がフードを準備しており種類の変更が多かった為、各フード会社が規定した、体重30kgに適正な量の食事の準備をするよう指導した（以下C期）（Fig. 1）。

各期のいずれも給餌回数を1日2回とした。体重測定とBCSの確認を行う為に4週間に1度を目安に来院するよう指導した。

A, B期は来院する部員が決まっておらず、来院予定日を忘れていたり、情報が以前来院した部員と異なっていたり、来院理由を理解していない場合があった。よってC期では部員の中から、飼育担当部員を決めるように指導した。2018年4月から、担当看護師が飼育担当部員（当時大学1年生、以下担当部員）に情報聴取を行い、食事指導を中心とした健康管理に関する助言を行った。そして、担当部員が他の部員へ周知するようにした。部員が情報共有しやすいようにチェックリストを1ヶ月単位で作成した。このチェックリストには食事を与えたらチェックマークを書く欄を設けた。

また、1年間のボスの情報を部員同士で共有させる為に年間予定表も作成した（Fig. 2）。

なお、本症例報告において、担当部員と麻布大学附属動物病院副院長にメールにて許可を得た。



Fig. 1 ボスの食事に関する指導の期間と異なる給餌方法

結 果

2013年8月から2019年9月までの体重は減少傾向であった。各期の平均体重（最小体重～最大体重）は、A期：30.6kg（28.4kg～33.3kg）、B期：31.6kg（30.1kg～32.2kg）、C期：29.8kg（28.1kg～32.0kg）であった（Fig. 3、Table. 1）。

C期ではチェックリストを作成した事で重複しての給餌を防げるようになった。また、担当部員を決めた事で来院予定日に必ず来院するようになり、正確な情報の共有を行いやすくなった。

来院予定表

12月	体重測定 皮膚と歯の経過観察		
1月		✓ 体重は30kgがベスト ✓ 歯は食後にガーゼで拭く	
2月			1年に1回です
3月		1ヶ月に1回です 忘れずに来院しましょう！	混合ワクチン 接種
4月		フィラリア 予防薬投薬	
5月			狂犬病ワクチン 接種
6月			健康管理センター にて接種です
7月		湿気や暑さで皮膚が赤く なりやすいです	
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			

Fig. 2 年間来院予定表

年間表を作成し、部員たちが理解できるよう工夫をした。

考 察

本結果より2つの事が見出せた。

1つ目は、食事指導では正確な給餌量を提案する事で体重の増減が少なかった事である。Jasonらは3つの異なるメジャーカップを使用して袋から取り出したドライフード量が、デジタルスケールで測定した量より増減した事を報告した。メジャーカップを使用するとデジタルスケールで測定する正確な量よりも-47.83%～152.17%の差がある事が分かった⁶⁾。飼いに食事指導を行う場合は、給餌する人によって差が出るメジャーカップよりも、スケールを使用する、または1回分や1日分のフードをあらかじめ小分けにする事で適切な量を与えられ、動物の体重の増減が小さ

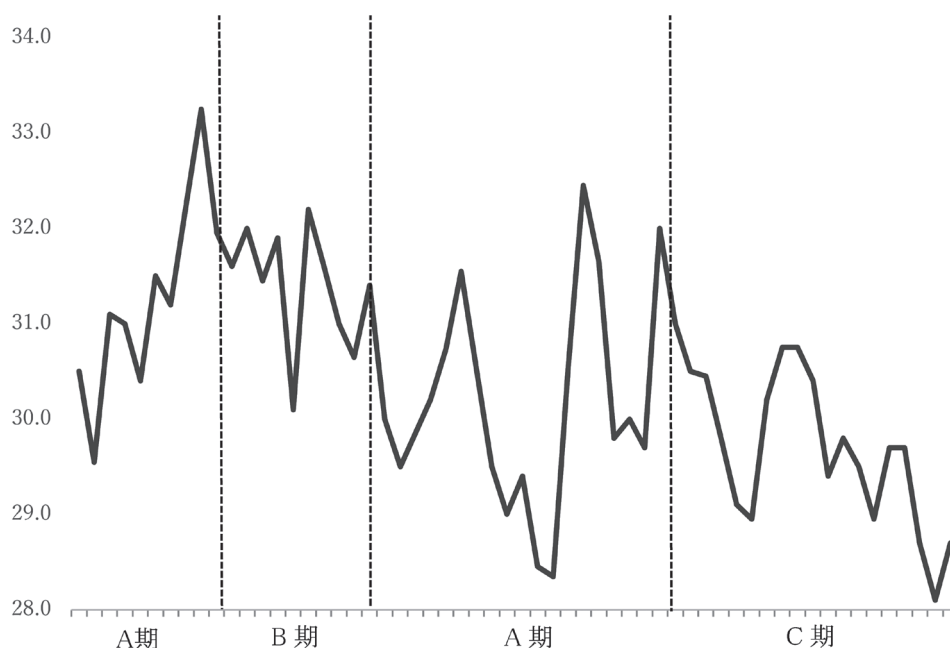


Fig. 3 2014年6月～2019年9月の体重の変化

Table. 1 各期間の体重

期間	平均体重 (kg)	最小体重 (kg)	最大体重 (kg)
A 期	30.6	28.4	33.3
B 期	31.6	30.1	32.2
C 期	29.8	28.1	32.0

くなる事が示唆された。つまり、摂取するカロリーを一定するために同じ人が食事量を決めると指導が円滑になると考えられた。

2つ目は、複数の飼い主がいる場合は1人の飼い主と話し合う事で、より円滑により正確な情報聴取が可能である事である。一般家庭においても家族で動物の世話をしている場合がある。家族間での情報共有が不足していると指導した管理ができない可能性がある。その動物を取り巻く飼い主同士の情報共有を支援する事もまた、動物看護師として重要な役割であると考えられる。本症例で使用したチェックリストは飼い主同士の情報共有に有用である事が示唆された。このことから、チェックリストは飼育する上で重要なアイテムであると考えられた。

日本における飼い主の指導に関する報告は少ない。岡澤らは動物病院で行うパピークラスへ参加した群が参加しなかった群よりパピークラス参加後の不妊・去

勢手術実施率、ワクチン接種率、フィラリア予防率、年間平均来院回数が高くなったと報告した。パピークラスに参加したことで正しいしつけの方法を伝える事ができるだけでなく、健康管理に対する意識の高まりや、パピークラス終了後も継続して同じ動物病院を受診するというさまざまな効果が得られる事が示された⁷⁾。また川添は、2019年に決定された愛玩動物看護師の仕事として学校飼育動物への指導を挙げている。一部の小学校では、児童が動物の生態への理解、生死への関わりを利点としてウサギやモルモットなどが飼育されている。その一方で教員への負担、年度毎の引継ぎ、獣医師や地域との連携が課題である。川添は来る愛玩動物看護師が学校動物飼育の指導を行う事で、飼育活動と生命教育に寄与する事ができると考えている⁸⁾。

イギリスでは既にクライアントエデュケーションは動物看護師の役割になっている^{2, 9)}。飼育者へ動物の健康に関する正しい知識を提供する事は、動物の健康と福祉の向上、飼い主が幸せで健康な動物を飼育できる事、獣医療スタッフの飼い主サービスや利益の向上、スタッフの意欲の増加が得られる⁹⁾。今後は、日本でも人と動物がより豊に共生していく為に、飼い主からの正しい情報の聴取と正しい知識の提供、信頼関係の構築が重要である。飼育場所や、飼育している家族構成、飼育環境、飼い主が不安に考えている事を把



Fig. 4 適正体重時の症例のようす

症例写真：2019年2月撮影。シャンプー後にリラックスしているようす。体重 29.4kg、BCS 3/5。



Fig. 5 削瘦時の症例のようす

2020年10月撮影。担当部員の自宅にて。体重 26.2 kg、BCS 2/5。Fig. 4に比較して腹部脂肪の減少、後肢の筋肉量減少、眼の窪みが確認される。

握し、それに対するクライアントデューケーションを遂行する為に、更なる探求の余地がある。

家庭犬として引き取ってくれた井上さんに心から感謝いたします。

結 論

本症例では、複数の飼い主への体重管理方法を見出す事ができた。

ボスの指導経験から、理想体重を提示するよりも具体的な食事量を示す方が成果を得られやすいと再確認した。また、集団の場合には、チェックリストを用いた健康管理は一定の効果を示した。

【本症例のその後】

2020年3月より新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴って在学生の大学入構が規制された。その為、担当部員の家で症例を預かる事となった。学生が大学に入構できるようになった後も、家庭犬として過ごす事となった (Fig. 4, 5)。現在は、体重が過度に減少しないよう食事指導を行っている。

謝 辞

本報告において、データの開示に快く承諾してくださり、指導をしてくださった麻布大学附属動物病院副院長の圓尾拓也先生に心から御礼申し上げます。また、ボスの健康管理に努めてくれた担当部員であり、

引用文献

- 1) 一般社団法人日本動物保健看護系大会協会カリキュラム委員会, 2019, 認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠臨床動物看護学 1
- 2) Emma Aitken, 2014, Client education benefits all: patient, client and practice, Veterinary Nursing Journal, 29, 178-180
- 3) Martha G, Maryanne M, 2019, Obesity in the Dog and Cat, 1-10, CRC Press, Florida
- 4) Mariana Y, Fábio A, Andressa R et al., 2020, Factors associated with failure of dog's weight loss programmes, 6, 299-305
- 5) 佐久間一郎, 加瀬史代, 他, 2010, 医師とコメディカルチームが共同して行う「生活習慣病改善プログラム」による患者指導の改善効果の検証, 人間ドック, 25, 51-55
- 6) Jason B, Alexandra R, et al., 2019, Dog owner's accuracy measuring different volumes of dry dog food using three different measuring devices, VET RECORD, 16, 1-6
- 7) 岡澤悦子, 岡拓真, 他, 2012, 動物病院で行うパピークラスの効果, 動物臨床医学, 21, 117-120
- 8) 川添敏弘, 2020, 愛玩動物看護師に期待したい地域活動, 24, Veterinary Nursing, 1-6
- 9) Nicola A, 2012, The Consulting Veterinary Nurse, 27, Veterinary Nursing Journal, 269-270

Client Education of Dog's Body Weight at the University Club

TOMONO Haruka¹⁾, ISHIBASHI Mika²⁾

Abstract

Whereas it is important to control body weight of dogs to maintain their health, there are few reports about supporting the owners in caring the body weight of their dogs.

In this article, we report about the information-sharing activities which were aimed to control body weight of dogs of the club members in this university. The dogs were obese because of the lack of information-sharing among the members of the club.

We instructed the members about three different ways of feeding from June 2014 to September 2019.

In one group, the club members fed the dogs with arbitrary amounts of dried foods (term A).

In a second group, we divided the dogs' food into single portions and instructed them to feed a portion at one time (term B).

And in a third group, we advised them to feed the dogs with the proper amount of food in accordance with food products' ingredient labelings. Furthermore, check-lists were also used (term C).

We decided that the members were to feed the dogs twice per day. And we measured the patients' body weight in the veterinary hospital every four weeks.

The average (Min~Max) body weights are as follows. A: 30.6kg (28.4kg~33.3kg), B: 31.6kg (30.1kg~32.2kg), C: 29.8kg (28.1kg~32.0kg)

There was a significant difference among each group. Furthermore, the check-lists were found to be useful for proper feeding.

It was concluded that we could control body weight by determining an exact quantity of food and making a check-list.

Key words: client education, body weight control, communications

¹⁾ Yamazaki University of Animal Health Technology

²⁾ Azabu University Veterinary Teaching Hospital